

バタフライガーデンの見直しとそれに伴う植栽変更について

堀川大輔・永木利夫・高山信明

2016年より、アサギマダラを呼ぶために、ツバキ園の一面にフジバカマ (*Eupatorium japonicum* Thunb.) およびコバノフジバカマ (*Eupatorium fortunei* Turcz.) を植栽し、バタフライガーデンとして整備していた。しかし近年、土壤病害による枯死株が目立つようになったことから、植栽変更を行ったのでそれを報告する。

経緯

2016年、ツバキ園内ヒゴツバキ植栽エリアの最下段の空いた場所の有効活用のため、蝶、特にアサギマダラが秋に飛来するようにフジバカマやコバノフジバカマを中心に蜜源となる植物を植栽した。期待通りにアサギマダラが飛来したため、来園者の見どころのひとつとなった。その後、さらに多くの種類の蝶が集まるよう数種類の蜜源となる植物や食草となる植物を植栽した(佐藤・向井 2019)。

植栽当初から、コバノフジバカマにおいて土壤病害(白絹病)により枯死する株が目立っており、苗圃で育成していた挿し木苗を補植していた。当初、薬剤処理や盛り土等で対応したが、改善されなかったため、以降は挿し木で増やした株を鉢植えにして苗圃で育成し、開花時期に同場所に鉢を搬入・設置してアサギマダラを飛来させる状況となっていた。一方で、展望塔前花壇(フジ棚手前)では、2020年よりコバノフジバカマを植栽しており、毎年アサギマダラが飛来している。

展示上の課題

苗圃でコバノフジバカマを100鉢以上栽培しているが、栽培場所の確保、挿し木から鉢上げ、施肥等の栽培管理のほか、ツバキ園内に灌水設備がないために、鉢植えの灌水の負担が大きくなるなど、日々の水やりを含めた通常業務に支障が出ていた。

今回の植栽変更について

ハギ園の秋の七草、万葉の植物が植栽されている区画の植物(久保 2016、2017)を撤去し、

代わりに挿し木で増やしたフジバカマ約70鉢を植栽した。また、挿し木で増やした約100鉢のコバノフジバカマを、開花時期にハギ園内および展望塔前花壇(フジ棚手前)に設置した。期待通り、アサギマダラがハギ園とその周辺に飛来した。今後も、フジバカマおよびコバノフジバカマの生育状況、アサギマダラの飛来状況を注意深く観察する必要がある。

今回の植栽変更に伴い、ツバキ園の一面にあるバタフライガーデンは展示終了とし、これまでコバノフジバカマの鉢を設置していた区画には、苗圃で栽培管理している園芸アジサイを植栽する方針である。また、様々な種類の蝶を呼ぶために植栽した植物は随時、他の場所に移植または鉢上げして苗圃で管理し、空いた区画には追加で園芸アジサイを植栽する。

なお、以前からアサギマダラが平年より早く飛来した時のために、ツバキ園の一面にあるバタフライガーデンに、コバノフジバカマより開花期が早いフジバカマを植栽しており、今後も維持する方針である。

引用文献

- 久保晴盛. 2016. ハギ園の植栽変更について(中間報告). 広島市植物公園. 栽培記録第37号: 26-27.
- 久保晴盛. 2017. ハギ園の植栽変更について2(経過報告). 広島市植物公園. 栽培記録第38号: 39-40.
- 佐藤祐輔, 向井昭彦. 2019. ツバキ園の植栽変更(バタフライガーデン). 広島市植物公園. 栽培記録第40号: 42-43.